



Course Guide

Wakayama University
Graduate School of Education

履修手引

和歌山大学大学院
教育学研究科

Course Guide 2025

令和7年度

edu.

令和7年度（2025年度）

和歌山大学大学院教育学研究科（教職大学院） 履修手引

目次

履修手引	1 ~ 13
学年暦, 授業計画	2
i 教育目的	4
ii ディプロマ・ポリシー	4
iii カリキュラム・ポリシー	5
iv 修了までに必要となる単位数等の一覧	6
v 履修	6
vi 授業時間と授業休止・欠席等	8
vii 試験	8
viii 成績	9
ix 修了研究の認定及び学位	10
x 教育職員免許状	11
xi 長期履修学生に関する規程	12
xii 学修ポートフォリオ	13
xiii 関係するウェブサイトのアドレス等	13
開設授業科目	14 ~ 17
教員名簿	18
建物配置図	19 ~ 23

令和7年度
(2025年度)

履修手引

和歌山大学大学院教育学研究科
専門職学位課程
(教職大学院)

令和7(2025)年度 学年暦・授業計画 (教職大学院)

第1クォーター：1Q
 第2クォーター：2Q
 第3クォーター：3Q
 第4クォーター：4Q

土・日・祝日・夏季一斉休業
 . . . 授業休止日 . . .

() 数字…クォーター授業回
 曜日+() 数字…代替授業曜日+クォーター授業回

○数字…セメスター授業回
 ○数字+補…セメスター補講日
 曜日+○数字…代替授業曜日+セメスター授業回

注) 予備日は、気象警報発表等により授業休止となった授業の代替実施等に充てる。
 注) 授業休止は、学部・学環及び大学院のすべての授業を対象とする。

和歌山大学

月/曜	日	月	火	水	木	金	土	学年暦	
令和7年 (2025年)			1	2	3	4	5	4月 1日 (火) 学期開始	
	4月	6	7	8	9	10	11	12	4月 4日 (金) ガイダンス 4月 5日 (土) 入学式 4月 7日 (月) ガイダンス
		13	14	15	16	17	18	19	4月 8日 (火) ガイダンス/履修登録開始 00:00 4月 9日 (水) 履修相談 /履修登録締切 23:59
		20	21	22	23	24	25	26	4月 10日 (木) 学生相談 4月 11日 (金) 1Q 授業開始
		27	28	29	30				4月 29日 (火) 休日 (昭和の日)
					1	2	3	5月 2日 (金) 代替授業日：火曜日授業実施 5月 3日 (土) 休日 (憲法記念日)	
5月	4	5	6	7	8	9	10	5月 4日 (日) 休日 (みどりの日) 5月 5日 (月) 休日 (こどもの日) 5月 6日 (火) 休日 (振替休日)	
	11	12	13	14	15	16	17		
	18	19	20	21	22	23	24		
	25	26	27	28	29	30	31		
6月	1	2	3	4	5	6	7	6月 1日 (日) 創立記念日 6月 7日 (土) 予備日 6月 11日 (水) 2Q 授業開始 6月 14日 (土) 予備日/1Q 授業終了	
	8	9	10	11	12	13	14		
	15	16	17	18	19	20	21		
	22	23	24	25	26	27	28		
	29	30							
7月			1	2	3	4	5	7月 17日 (木) 授業休止日 (学生大会) 7月 21日 (月) 休日 (海の日) 7月 23日 (水) 代替授業日：月曜日授業実施	
	6	7	8	9	10	11	12		
	13	14	15	16	17	18	19		
	20	21	22	23	24	25	26		
	27	28	29	30	31				
8月						1	2	8月 2日 (土) 予備日 8月 8日 (金) 予備日/2Q 授業終了 8月 10日 (日) 夏季休業開始 8月 11日 (月) 休日 (山の日) 8月 12日 (火) 夏季一斉休業開始 8月 18日 (月) 夏季一斉休業終了	
	3	4	5	6	7	8	9		
	10	11	12	13	14	15	16		
	17	18	19	20	21	22	23		
	24	25	26	27	28	29	30		
	31								
9月		1	2	3	4	5	6	9月 1日 (月) 3Q授業開始 9月 12日 (金) ~1Q・2Q 成績開示 9月 15日 (月) 休日 (敬老の日) 9月 17日 (水) 1Q・2Q 成績の異議申立期限 ※修了学年除く 9月 18日 (木) 夏季休業終了 9月 23日 (火) 休日 (秋分の日) 9月 26日 (金) 前期 学位記授与式	
	7	8	9	10	11	12	13		
	14	15	16	17	18	19	20		
	21	22	23	24	25	26	27		
	28	29	30						

月/曜	日	月	火	水	木	金	土	学年暦
10月				1 (5) ⑤	2 (5) ⑤	3 (4) ④	4	10月13日(月) 休日(スポーツの日) 10月15日(水) 代替授業日:月曜日授業実施 10月30日(木) 予備日
	5	6 (5) ⑤	7 (5) ⑤	8 (6) ⑥	9 (6) ⑥	10 (5) ⑤	11	
	12	13 スポーツの日	14 (6) ⑥	15 月⑥ 月⑥	16 (7) ⑦	17 (6) ⑥	18	
	19	20 (6) ⑥	21 (7) ⑦	22 (7) ⑦	23 (8) ⑧	24 (7) ⑦	25	
	26	27 (8) ⑧	28 (8) ⑧	29 (8) ⑧	30 予備日	31 (8) ⑧		
11月							1	11月 3日(月) 休日(文化の日) 11月 4日(火) 予備日
	2	3 文化の日	4 予備日	5 予備日	6	7	8	11月 5日(水) 予備日
	9	10	11	12	13 ・ 14 ・ 大学祭準備	14 大学祭	15	11月14日(金) 授業休止日(大学祭準備) 11月15日(土) 大学祭 11月16日(日) 大学祭
	16	17 大学祭 大学祭後片付	18	19	20	21	22	11月17日(月) 授業休止日(大学祭後片付) 11月23日(日) 休日(勤労感謝の日)
	23	24 勤労感謝の日 振替休日	25	26	27	28	29	11月24日(月) 休日(振替休日)
	30							
12月		1 (1) ⑨	2 (1) ⑨	3 (1) ⑨	4 (1) ⑨	5 (1) ⑨	6	12月 1日(月) 4Q 授業開始 12月27日(土) 冬季休業開始
	7	8 (2) ⑩	9 (2) ⑩	10 (2) ⑩	11 (2) ⑩	12 (2) ⑩	13	
	14	15 (3) ⑪	16 (3) ⑪	17 (3) ⑪	18 (3) ⑪	19 (3) ⑪	20	
	21	22 (4) ⑫	23 (4) ⑫	24 (4) ⑫	25 (4) ⑫	26 (4) ⑫	27 冬季休業開始	
	28	29	30	31				
令和8年 (2026年) 1月				1 元日	2	3		1月 1日(木) 休日(元日) 1月 5日(月) 冬季休業終了
	4	5 冬季休業終了	6 (5) ⑬	7 (5) ⑬	8 (5) ⑬	9 (5) ⑬	10	1月12日(月) 休日(成人の日) 1月13日(火) 代替授業日:月曜日授業実施
	11	12 成人の日	13 月⑤ 月⑬	14 (6) ⑭	15 (6) ⑭	16 (6) ⑭	17	1月16日(金) ※授業休止5・6限(大学入学共通テスト準備) 代替授業は2月4日(水)5・6限
	18	19 (6) ⑭	20 (6) ⑭	21 (7) ⑮	22 (7) ⑮	23 (7) ⑮	24	1月17日(土) 大学入学共通テスト実施〔関係者以外入構禁止〕 1月18日(日) 大学入学共通テスト実施〔関係者以外入構禁止〕
	25	26 (7) ⑮	27 (7) ⑮	28 (8) ⑯補	29 (8) ⑯補	30 (8) ⑯補	31	
2月	1	2 (8) ⑯補	3 (8) ⑯補	4 予備日	5 予備日	6	7	2月 4日(水) 予備日(1/16代替授業5・6限) 2月 5日(木) 予備日
	8	9	10	11 建国記念日	12	13	14	2月11日(水) 休日(建国記念日) 2月23日(月) 休日(天皇誕生日)
	15	16	17	18	19	20	21	2月25日(水) 前期日程入学試験実施〔関係者以外入構禁止〕
	22	23 天皇誕生日	24	25 前期入試	26	27	28	
3月	1	2	3	4	5	6	7	3月12日(木) 後期日程入学試験実施〔関係者以外入構禁止〕 3月13日(金) ~年間・3Q・4Q 成績開示
	8	9	10	11	12 後期入試	13	14	3月16日(月) 春季休業開始
	15	16 春季休業開始	17	18	19	20 春分の日	21	3月17日(火) 年間・3Q・4Q 成績異議申立期限 ※修了学年除く 3月20日(金) 休日(春分の日)
	22	23	24	25 学位記授与式	26	27	28	3月25日(水) 学位記授与式 3月31日(火) 学期終了/春季休業終了
	29	30	31 春季休業終了					

教育学研究科専門職学位課程（教職大学院）の教育目的 教育学研究科専門職学位課程（教職大学院）教職開発専攻は、「地域で育ち、世界に生き、地域を支える」教育に寄与することができる教師を育てることを使命と考え、そのために必要な高い資質能力、および人権意識を修得させることを目的とする。

コース名	教育目的
学校改善マネジメント コース	教職経験 10 年程度の現職教員を対象とし、これまでの経験を学校経営という観点から整理・意味づけを行い、専門的知見に基づく高度の実践的指導力を修得したミドルリーダーとして、「現任教をよりよい学校へと改善する中心的役割を担うことのできる教員」および、「地域の強みを活かした学校づくりに寄与する教員」を養成する。また、「自ら学び続けるとともに、周りの教職員の学びを支援する教員」の養成を目指す。
スペシャリスト コース	現職教員を対象として、これまで教科や分野・領域の指導や実践的研究で修得してきた専門的知識や実践力をもとに、専門性を深めることにとどまらず、当該教科や分野・領域の知識や考え方を教科や領域を超えて、日常から未来に広がる学びを創り出す教員を育成する。また、当該教科等はもとより、学校全体の教育課程の編成に寄与し、ミドルリーダーとして若手教員等の育成に貢献できる資質能力を高める。
授業実践力向上 コース	学部からの進学者など、主として教職経験がない、あるいは浅い者を対象とし、学部での学習を土台として、子ども理解と確かな知識に根差し、子どもや学校・地域の実態に応じた授業を計画・展開できる「確かな授業力」を主軸とし、子どもの学びをエンパワーする学習集団としての学級を育て、子ども、保護者、教職員から信頼される教員、またよりよい実践に向けて、学び続ける基盤と姿勢をもった教員の養成を目指す。
特別支援教育 コース	現職教員及び学部からの進学者などを対象に、特別支援教育に関する理解を深め、障害など特別な配慮を必要とする児童生徒一人ひとりに応じた教育が行える実践力を高める。とくに、現職教員については、児童生徒の自立や社会参加に向けたライフステージに応じた指導・支援を行うとともに、特別支援学校のセンター的機能を果たすためのコンサルテーションの専門性を向上させる。また、学校運営に寄与するために、若手教員等の育成に当たるミドルリーダーの資質能力を高める。特別支援学級の教員は、児童生徒の指導・支援に関する専門性を高め、特別支援教育コーディネーターとして、通常の学級に在籍し支援を必要とする児童生徒への全校的対応について助言を行い、校内支援体制の構築に寄与する資質能力を高める。あわせて、現職教員及び学部からの進学者とともに、特別な配慮を必要とする児童生徒の家庭の理解、支援を行うことができる資質能力を高める。

和歌山大学の目的及び使命並びに教育学研究科の目的に基づき、研究科の専門教育を通して、「学び続ける教師」として次の目標に到達していると認められる者に教職修士（専門職）の学位を授与する。

1. 高度な専門性と研究力

- ・学校教育において教育活動を行うための高度な専門的知識や実践力を身につけている。
- ・学校や教育実践に寄与するために、課題解決に取り組むための力量を有している。
- ・自律的に課題を発見・解決する柔軟な思考力や研究遂行力を身につけている。
- ・短期的・長期的な視野に立ち、反省的実践者としての省察に基づいて教育活動の改善に取り組むための力量を有している。

2. 協働性と倫理性

- ・ 基本的人権を擁護し、他者と関わりながら教育活動を高度に展開するための基盤を有している。
- ・ 研究倫理を順守し、教育の発展に寄与する高度な研究活動を行う基盤を有している。

3. 地域への関心とグローバル視点

- ・ 地域をグローバルな視点から理解し、地域社会と協調的な関係を構築するための高度な専門的知識や技能を身につけている。



教育学研究科専門職学位課程（教職大学院）のカリキュラム・ポリシー

教職修士（専門職）にかかる学修成果を身につける教育課程を次の方針に基づき編成し実施する。

【教育課程編成の視点と内容】

1. 「学び続ける教師」として求められる高度な専門的知識や技能を身につけるため、体系的・系統的なカリキュラムを設定する。その内容は、専攻共通科目、コース専門科目、実習科目、実習関連科目に分類する。
2. 教育課程の編成に際しては、以下の内容を視野に入れる。
 - ・ 最新の専門理論・技術と実践の架橋
 - ・ 地域の学校・子どもの実態、必要性に応じた実践を行うための理論・技術の修得
 - ・ 時代が求める教育を地域に応じて展開できる理論の修得と実践

【教育課程展開の授業形態・方法】

1. 授業科目ごとに到達目標を設定する。
2. 到達目標に向かって学修を進められるように、講義、演習、実験、実習、実技又はこれらを組み合わせた授業を行う。
3. 各科目では、その態様に応じて予習・復習・課題等により、授業時間外学習を課す。
4. 授業の方法については、以下の内容を視野に入れる。
 - ・ 研究者と実務家によるティームティーチング、あるいはチームによる授業提供
 - ・ 課題解決型ワークショップ、提案型プレゼンテーション、ロールプレイング、ケースメソッドや実践事例の検討
 - ・ 指導案の提案、それに基づく授業実践
 - ・ 地域の学校と密着した実習
 - ・ 関係機関との意見交換会・交流会

【学修成果の評価方法】

1. 学修成果は、シラバス等に明記された到達目標に応じて、試験、レポート、審査、口頭試問、研究発表などを通して評価する。
2. 評価の方法に際しては、次の内容を視野に入れる。
 - ・ 課題解決型ワークショップ、提案型プレゼンテーション、ロールプレイング、ケースメソッド、指導案・授業実践の評価
 - ・ 学生が自ら立てた課題と到達目標の達成度
 - ・ 学校や地域・関係機関に関する報告書

修了に必要な知識・能力の確認のため、作成された報告書の内容について、別に定める評価基準に基づいて口頭試問を課し、複数教員により合否を判定する。

履修方法 下記の履修基準単位表に従い、46 単位以上を単位取得してください。

(令和6(2024)年度以降入学者の履修基準単位表)

科目区分	修了に必要な単位数	対応するディプロマ・ポリシー
専攻共通科目	20	1,2,3
コース専門科目	12	1,2,3
実習科目	10	2,3
実習関連科目	4	1,2
計	46	
修了後授与される学位	教職修士(専門職)(Master of Education for Professional Development)	

(令和3(2021)年度以降入学者の履修基準単位表)

科目区分	修了に必要な単位数	対応するディプロマ・ポリシー
専攻共通科目	20	1,2,3
コース専門科目	12	1,2,3
実習科目	10	2,3
実習関連科目	2	1,2
修了研究	2	主に1,2
計	46	
修了後授与される学位	教職修士(専門職)(Master of Education for Professional Development)	

- 注1. 学校改善マネジメントコース・スペシャリストコースでは、これまでの学修履歴に応じて、「専攻共通科目」の一部科目を「コース専門科目」の当該分野の科目によって代替できます。
2. 原則としてすべての実習科目において免除は認められていません。
3. 実習科目の履修に際しては、実習に対応する学校種の教育職員免許状を所有する必要があるため注意してください。(授業実践力向上コース「教育職員免許状取得プログラムを希望する者」の区分により入学した者は、1年目終了時まで教育職員免許状を取得してください。)

履修登録 修了要件単位及び教育職員免許状取得のために必要となる単位を確認するとともに、指導教員の指導のもとに、每学期初めの所定の期日(履修登録日)までに、履修しようとする授業科目を所定の手続きに従って登録する必要があります。

履修しようとする授業科目の確認方法(開設科目一覧・シラバス) 後掲の「開設科目一覧」を参照ください。授業の詳細情報については、和歌山大学ウェブサイト「<https://www.wakayama-u.ac.jp/>」から教育サポートシステムにアクセスし、「シラバス」を検索することで閲覧することができます。

学期 教育学研究科専門職学位課程（教職大学院）ではクォーター制（4学期制）を導入し、学年を4つの学期に区分し、各授業科目は、各期15回にわたる期間を基本として授業を行います。

履修登録の時期 具体的な科目や登録期限については、後掲の『開設科目一覧』や教育サポートシステムで確認してください。期限を過ぎた場合、登録の変更は一切できません。なお、すべての科目の登録期間は4月です。

指導教員の決定 1年次4月に仮決定し、研究内容等に応じて1年次後期に決定します。

授業の方法・単位数・学修時間（単位の計算方法） 1単位を修得するために必要な学修時間は、『大学院設置基準（昭和49年6月20日文部省令第28号）』において、授業時間外の学修を含め「45時間」と定められています。1年間において履修登録することができる単位数の上限は40単位ですが、予習・復習等に充てる時間を確保しながら履修科目を選ぶようにしてください。

区 分	1単位を修得するために必要な学修時間
講 義	授業時間数 15時間（及び予習・復習等 30時間）
演 習	授業時間数 15～30時間（及び予習・復習等 30～15時間）
実験・実習・実技	授業時間数 30時間（及び予習・復習等 15時間）

現職教員等の修学に関する特例措置 『大学院設置基準』第14条に定める教育方法の特例（14条特例）の趣旨に基づき、現職教員等を受け入れ、再教育の機会を設けることは、本研究科設置の主要目的の一つです。現職教員等の修学を容易にし、大学院としての研究・教育の一定の水準を維持するための制度として、以下の措置を講じています。

1. 特例措置適用の認定

学校教育法第1条に規定する学校において3年以上の教職経験を有する者のうち、派遣母体である都道府県教育委員会・学校法人等の意向を勘案し、出願時の申請に基づき研究科委員会において、特例措置の適用を認定する。

2. 教育方法

(1) 現職教員のうち、特例措置の適用を認定された者は、専門職学位課程（教職大学院）の修業年限の前半1年間は研究科において、研究及び履修に専念し、定められた単位を取得する。

- ・この期間における履修単位は、課程修了に必要な46単位のうち、34単位以上とする。
- ・これらの単位は、通常の授業時間帯に開講される授業により履修する。

(2) 後半の1年間は、在職校においてその勤務と教育実践研究を並行し、研究科の指定した日に登校し研究指導を受けるとともに定められた科目の履修を行う。

- ・この特例による履修単位は、実習関連科目（令和5年度以前入学者は、修了研究）を含む12単位以内とする。
- ・特例措置の適用を認定された者の2年次における履修は下記の範囲内とする。

専攻共通科目（又はコース専門科目）	4単位以内
実習科目	6単位
実習関連科目（令和5年度以前入学者は、修了研究）	2単位
	計 12単位以内
- ・特例による授業時間における履修に関しては、指導教員の指導のもとに計画し、1年次の修了までに、あらかじめ決定する。

(3) 授業の実施方法

- ・平日の通常授業時間のほか、夏季・冬季等の休業期間において、集中講義等により授業を開講する。

既修得単位の認定 「和歌山大学学則」第74条の規定に基づき、入学する前に和歌山大学大学院教育学研究科専門職学位課程（教職大学院）で修得した単位について、教育学研究科に定める修得すべき単位数に算入することができます。ただし、修業年限の短縮は行いません。この制度に基づいて単位認定を受けようとする学生は、学生センター（学務課教育学部係）にある「既修得単位認定願」に成績証明書を添付し、入学年の4月末日（土日祝日除く）までに申請してください。

時 限	時 刻	備 考
1時限	9:10 ~ 10:40	午前 6時時点の和歌山市の気象警報に注意
(休憩)	(10:40 ~ 10:50)	
2時限	10:50 ~ 12:20	午前 6時時点の和歌山市の気象警報に注意
(昼休)	(12:20 ~ 13:10)	
3時限	13:10 ~ 14:40	午前 10時時点の和歌山市の気象警報に注意
(休憩)	(14:40 ~ 14:50)	
4時限	14:50 ~ 16:20	午前 10時時点の和歌山市の気象警報に注意
(休憩)	(16:20 ~ 16:30)	
5時限	16:30 ~ 18:00	午前 10時時点の和歌山市の気象警報に注意※
(休憩)	(18:00 ~ 18:10)	
6時限	18:10 ~ 19:40	午前 10時時点の和歌山市の気象警報に注意※

※5時限以降の授業は3時限以降連続して開講する場合がありますため、午前10時時点の学内連絡を参照してください。

気象警報発表時における授業の取扱い 和歌山市に「暴風警報」、「大雨警報」または「大雪警報」が発表された場合（和歌山市以外の警報は対象となりませんので注意してください）、南海本線及びJR阪和線が両線とも運休した場合には、授業を全て休止とします。

なお、同警報が解除または運転再開した場合の授業の取扱いは以下のとおりです。

《警報解除時刻》 午前 6時 0分 の時点で解除された場合 → 1時限から実施
午前 10時 0分 の時点で解除された場合 → 3時限から実施

※授業実施中に「暴風警報」、「大雨警報」または「大雪警報」が発表された場合等においては、原則としてその時限は実施し、次の時限以降を休止とします。状況によっては、授業中であっても授業休止とする場合や地震その他の災害等によっても休止とする場合がありますので、掲示連絡等には注意してください。

欠席について 特別な事由により欠席する場合、ウェブサイトで公開されている学内規則の項目に記載されている「和歌山大学学生の特別な事由による欠席の取り扱いに関する要項」を参照してください。詳しくは、学生センター（学務課教育学部係又は教育推進係）までお問い合わせください。

試験の方法 試験の方法は、カリキュラム・ポリシーに基づき、授業科目ごとにシラバスに記載されています。試験は、筆記又は口述とし、当該科目の授業が終了する学期末に行われます。ただし、授業科目によっては、適当な時期に行うことがあります。

（再掲 カリキュラム・ポリシーにおける【学修成果の評価方法】）

1. 学修成果は、シラバス等に明記された到達目標に応じて、試験、レポート、審査、口頭試問、研究発表などを通して評価する。
2. 評価の方法に際しては、次の内容を視野に入れる。
 - ・課題解決型ワークショップ、提案型プレゼンテーション、ロールプレイング、ケースメソッド、指導案・授業実践の評価
 - ・学生が自ら立てた課題と到達目標の達成度
 - ・学校や地域・関係機関に関する報告書

成績評価 成績評価の方法は、「和歌山大学成績評価及び単位取得並びにGPA制度に関する規定」に基づき、授業科目ごとにシラバスに記載されています。

素点と評価及び学修の成果 素点と評価及び学修の成果の関係は以下のとおりです。

素点	評価	学修の成果
90～100	S	特に優れた成果を修めた。
80～89	A	優れた成果を修めた。
70～79	B	期待される成果を修めた。
60～69	C	必要とされる最低限の成果を修めた。
0～59	F	必要とされる成果を修めることができなかった。

なお、素点及び評価区分による評価が困難な科目については、合否のみの評価をすることがあります。

評価	学修の成果
合格	あらかじめ明示された到達目標を達成している。
不合格	あらかじめ明示された到達目標を達成していない。

合格については、その授業科目の所定の単位を修得したものと認定します。

その他、詳しくは、ウェブサイトに掲載している学内規則の項目に掲載されている「和歌山大学成績評価及び単位修得並びにGPAに関する規程」を参照してください。

素点とG P (Grade Point) 値 素点とG P 値の関係は以下のとおりです。

素点	100	99	98	97	96	95	94	93	92	91
G P 値	4.5	4.4	4.3	4.2	4.1	4.0	3.9	3.8	3.7	3.6
素点	90	89	88	87	86	85	84	83	82	81
G P 値	3.5	3.4	3.3	3.2	3.1	3.0	2.9	2.8	2.7	2.6
素点	80	79	78	77	76	75	74	73	72	71
G P 値	2.5	2.4	2.3	2.2	2.1	2.0	1.9	1.8	1.7	1.6
素点	70	69	68	67	66	65	64	63	62	61
G P 値	1.5	1.4	1.3	1.2	1.1	1.0	0.9	0.8	0.7	0.6
素点	60	0-59	計算方法 G P 値 = (素点 - 55) ÷ 10 但し素点 59 以下は 0 とする。							
G P 値	0.5	0								

G P A (Grade Point Average) G P A とは、成績評価をG P 値に置きかえて、履修登録した全科目の平均を数値により示すものです。和歌山大学では当該学期における学修の成果目標としての「学期G P A」と、在学中における全期間の学修の成果目標としての「通算G P A」の2通りがあります。低い成績評価や単位の取り落としはG P Aの低下につながります。この制度を活用して、自己の学修状況と目標の達成度を把握し、適切な履修計画を立てるようにしてください。また、G P Aは修学指導等にも利用されます。

成績交付時期 成績交付の時期は以下のとおりです。詳しくは、教育サポートシステムにて連絡します。

区分	成績交付時期
1 Q・2 Qの成績	9月上～下旬に交付。
3 Q・4 Q・年間の成績	3月中～下旬に交付。

成績評価に関する申立て 成績評価について疑義がある場合は、所定の用紙（学生センターの学務課教育学部係に備付）により申立てを行うことができます。詳しくは、ウェブサイトに掲載している「成績開示及び成績評価の異議申立てに関する要項」を参照してください。

修了認定 以下のとおりです。

コース名	課題探究の認定
学校改善マネジメント コース	「課題リサーチインターンシップ」, 「課題分析」, 「学校実践実習A・B」における実践記録, 整理・分析をもとに, 現任校で得た知見が地域の学校にどのように活かされるかについて検討を行い, 報告書としてまとめ口頭試問を受ける。また, 現任校をはじめ学校関係者参加の報告会で, 成果と課題, 汎用性について簡潔に発表できるよう準備を行い, 想定される質疑応答に備える。
スペシャリスト コース	「課題リサーチインターンシップ」, 「課題分析」, 「学校実践実習A・B」における実践記録, 整理・分析をもとに, 現任校で得た知見が地域の学校にどのように活かされるかについて検討を行い, 報告書としてまとめ口頭試問を受ける。また, 現任校をはじめ学校関係者参加の報告会で, 成果と課題, 汎用性について簡潔に発表できるよう準備を行い, 想定される質疑応答に備える。
授業実践力向上 コース	自らの学びと課題を報告書となるポートフォリオにまとめる。「授業参加インターンシップ」, 「課題分析」, 「授業実践実習A・B」における実践記録, 整理・分析をもとに, 自己課題, 取組, 省察・成果, 今後の課題についてまとめ, 口頭試問で, 自己課題, 取組, 省察・成果, 今後の課題について簡潔に発表できるよう準備を行い, 想定される質疑応答に備える。
特別支援教育 コース	現職教員の場合, 「課題リサーチインターンシップ (特別支援教育)」, 「課題分析 (特別支援教育)」, 「学校実践実習A・B (特別支援教育)」における実践記録, 整理・分析をもとに, 現任校で得た知見が地域の学校にどのように活かされるかについて検討を行い, 報告書としてまとめ口頭試問を受ける。また, 現任校をはじめ学校関係者参加の報告会で, 成果と課題, 汎用性について簡潔に発表できるよう準備を行い, 想定される質疑応答に備える。 学部からの進学者の場合, 自らの学びと課題を報告書となるポートフォリオにまとめる。「授業参加インターンシップ (特別支援教育)」, 「課題分析 (特別支援教育)」, 「学校実践実習A・B (特別支援教育)」における実践記録, 整理・分析をもとに, 自己課題, 取組, 省察・成果, 今後の課題についてまとめ, 口頭試問で, 自己課題, 取組, 省察・成果, 今後の課題について簡潔に発表できるよう準備を行い, 想定される質疑応答に備える。

学位 教育学研究科専門職学位課程(教職大学院)に2年以上在学し, 教職開発専攻で定めた修了認定に必要な授業科目46単位以上を修得した者は, **教職修士(専門職)(Master of Education for Professional Development)**の学位が授与されます。

専修免許状 小学校、中学校（各教科）、高等学校（各教科）、特別支援学校（領域：知的障害・肢体不自由・病弱）教諭1種免許状（あるいは1種に対応する教育職員免許状）を有する者は、教育学研究科専門職学位課程（教職大学院）において学位を取得し、教育職員免許法及び同法施行規則に定める所定の単位を修得することで、所有する1種免許状に対応する専修免許状を取得することができます。

専修免許状を取得するための 基礎資格	専修免許状を取得するための 所定の単位
修士（教職修士（専門職））の学位を有すること	「教科及び教職に関する科目」（特別支援学校においては「特別支援教育に関する科目」） 24単位以上を取得すること

取得可能な専修免許状の種類 以下のとおりです。

小学校教諭	中学校教諭	高等学校教諭	特別支援学校教諭
小学校	国語・社会・数学・理科・音楽・美術・保健体育・保健・技術・家庭・職業・職業指導・英語・ドイツ語・フランス語・中国語・〈韓国・朝鮮語〉・宗教	国語・地理歴史・公民・数学・理科・音楽・美術・工芸・書道・保健体育・保健・看護・家庭・情報・農業・工業・商業・水産・福祉・商船・職業指導・英語・ドイツ語・フランス語・中国語・〈韓国・朝鮮語〉・宗教	知的障害・肢体不自由・病弱

教育職員免許状の申請 教育職員免許状の交付を受けるためには教育委員会への申請が必要です。その方法には、本人自ら申請を行う 個人申請 と、大学が申請を代行する 一括申請 があります。教育学研究科では毎年3月に大学院を修了する学生を対象に、学生センターにおいて一括申請の業務を行っています（9月修了は対象となりません）。手続きの方法は2年次10月から11月にかけて、教育サポートシステムで詳しく指示します。なお、このとき申請ができなかった場合は修了後に 個人申請 となりますので、十分注意してください。

修了年次 10-11月	教育職員免許状の一括申請を行います。手数料が別途必要になります。
3月	修了時において、学位記（卒業証書）とともに教育職員免許状を受け取ります。

教育職員免許状取得プログラム 本プログラムでは、通常のエデュケーション研究科専門職学位課程（教職大学院）の履修とともに、科目等履修生として学部の教員養成カリキュラムを履修することにより、教育職員免許状（小学校2種、ただし和歌山大学システム工学部においてSSTP（Super Science Teacher Program）又は教育職員免許状取得コースの認定を受けている学生は中学校1種）の所要資格を得ることができます。この場合、科目等履修生にかかる検定料、入学金、授業料は免除され、また、下記の長期履修学生制度を活用することができます。なお、本プログラムの取扱いは、後掲の「和歌山大学大学院教育学研究科教育職員免許状取得プログラム取扱要項」に基づいています。

長期履修学生制度 授業実践力向上コースにおいて教育職員免許状取得プログラムの認定を受けた学生・和歌山大学システム工学部においてSSTPの認定を受け、教職開発専攻授業実践力向上コースに入学した学生を対象に、研究科の標準修業年限の2年を超えて一定の期間（3年）にわたり計画的に教育課程を履修・修了することの希望を申し出たときは、審査の上、その計画的な履修を認めています。

この制度により長期履修学生と認められた場合の授業料は、2年間（標準の修業年限）分の授業料総額を、あらかじめ認められた一定の修業年限で除いた額にして、それぞれの年に支払うこととなります。

申請するための資格及び時期等については入学手続き時に送付していますが、後掲の「和歌山大学大学院教育学研究科長期履修学生規程」も参照してください。

和歌山大学大学院教育学研究科長期履修学生規程

制定 平成17年6月23日 最終改正 平成31年1月10日

(趣旨)

第1条 この規程は、和歌山大学学則第75条の2の規定に基づいて履修する学生（以下「長期履修学生」という。）に関し、必要な事項を定めるものとする。

(修業年限及び在学年限)

第2条 長期履修学生の修業年限は、年度単位とし、3年又は4年とする。ただし、第2年次から長期履修学生として認められた者は、第2年次から2年とする。

2 前項の修業年限を超えて在学できる年限は、2年とする。

(申請資格)

第3条 長期履修学生を希望することができる者は、次の各号の一に該当する者とする。ただし、第2年次に在学する者は、申請することができない。

- (1) 職業を有する者
- (2) 教育職員免許状取得プログラムを受講する者
- (3) その他研究科長が認めた者

(申請手続)

第4条 長期履修学生を希望する者は、別に定める長期履修申請書を次の各号に定める期間内に提出しなければならない。

- (1) 第1年次の始めから希望する場合、入学前の3月1日から3月10日まで。
- (2) 第1年次に在学する者が第2年次の始めから希望する場合、第1年次の3月1日から3月10日まで。

(許可)

第5条 前条の申請に対しては、和歌山大学大学院教育学研究科会議（以下「研究科会議」という。）の議を経て、研究科長が許可する。

(履修期間短縮の申請手続)

第6条 長期履修学生が履修期間の短縮を希望する場合は、別に定める長期履修期間短縮申請書を、短縮による修了予定年度の前年度の3月1日から3月10日までの間に提出しなければならない。

2 前項の履修期間の短縮は、標準修業年限（2年）への短縮を含むものとする。

(履修期間短縮の許可)

第7条 前条の申請に対しては、研究科会議の議を経て、研究科長が許可する。

(学籍管理原簿への記載)

第8条 第5条及び前条の許可があった場合は、学籍管理原簿にその旨を記載するものとする。

(授業料)

第9条 長期履修学生の授業料の額は、別に定める。

(雑則)

第10条 この規程に定めるもののほか、長期履修学生に関し必要な事項は、別に定める。

附 則 〈略〉

和歌山大学大学院教育学研究科教育職員免許状取得プログラム取扱要項

制定 平成21年1月29日 最終改正 令和5年3月20日

(趣旨)

1 大学院教育学研究科に在籍する学生（研究生及び科目等履修生を除く。）が、教育職員免許状の取得の所要資格を得ることができるプログラム（以下「教育職員免許状取得プログラム」という。）を設け、その実施に必要な事項を定める。

(申請資格)

2 教育職員免許状取得プログラムの受講を申請できる者は、大学院の入学選抜試験に出席した者とする。

(申請)

3 教育職員免許状取得プログラムの受講を申請する者は、別に定める教育職員免許状取得プログラム受講申請書及び履修計画書を、入学試験の出願期限までに出席書類と併せて提出しなければならない。

〈中 略〉

(履修制限)

6 教育職員免許状取得プログラムの受講を申請する者は、一般の科目等履修生の申請をすることはできない。

〈中 略〉

(その他)

11 この要項に定めるもののほか、教育職員免許状取得プログラムの実施に関し必要な事項は、別に定める。

附 則 <略>

xii

学修ポートフォリオ

学修ポートフォリオについて 学修ポートフォリオは、大学院2年間の目標・計画、また学習過程の記録や自己評価、振り返りを行うことを目的としています。入力には教育サポートシステムから行いますので、定められた期ごとに必要な項目について必ず入力してください。また、入力後、後日担当教員からのコメントがありますので、あわせて確認してください。

学修ポートフォリオの入力にあわせてアンケートも実施します。アンケートは、今後の大学教育の改善のため必要な内容となっておりますので、必ず回答してください。

xiii

関係するウェブサイトのアドレス等

(関係するウェブサイトのアドレス等)

学生番号	P***** Pにつづく7桁の数字です。学生証を確認してください。
メールアドレス	p*****@wakayama-u.ac.jp
メールアドレスのパスワード	新入生には別途お知らせがあります
教育サポートシステム	のパスワード 新入生には別途お知らせがあります
証明書自動発行機のパスワード	受験番号の下4桁です

教育学部・教育学研究科	⇒ https://www.wakayama-u.ac.jp/edu/	
新入生向け設定ガイドのページ	⇒ https://www.wakayama-u.ac.jp/aic/for_new_student.html	新入生は重要
教育サポートシステム	⇒ https://kmags.wakayama-u.ac.jp/	
ムードル (M o o d l e)	⇒ https://moodle.wakayama-u.ac.jp/	
シラバス	⇒ https://web.wakayama-u.ac.jp/syllabus/	
在学中マイクロソフトのソフトウェアがインストールできるページ	⇒ https://www.wakayama-u.ac.jp/aic/service/365/proplus.html	
学術情報センター	⇒ https://www.wakayama-u.ac.jp/aic/	

・ソフトウェアの不正使用は、著作権法および本学のネットワーク利用規定で禁止されているので注意してください。

2025 年度 開設科目一覽

教育学研究科教職開発専攻

表の見方

区分	「専攻共通科目」「コース専門科目」「実習科目」「実習関連科目」の科目区分を示します。			
受講対象	◎→必修となる科目、○→履修可能科目、無印 →受講できません			
	学	学校改善マネジメントコース	授	授業実践力向上コース
	ス	スペシャリストコース	特	特別支援教育コース
時間割コード	教育サポートシステム上の時間割コードを示します。(科目コードは、時間割コード後ろの_L2 を除いた文字列です。)			
授業科目	授業科目名を示します。			
単位	この授業科目の単位数を示します。			
対象	この授業科目の履修対象年次を示します。1→1 年次履修、2→2 年次履修、1-2→1-2 年次履修 を示します。			
開設期間	この授業科目の開設期間を示します。「学年暦」をあわせて参照してください。			
	年間	年間にわたる科目	III	第 3 クォーターに開設される科目
	I	第 1 クォーターに開設される科目	IV	第 4 クォーターに開設される科目
	II	第 2 クォーターに開設される科目		
曜 時限	この授業科目の開設される曜・時限を示します。詳しい時間帯は履修手引とあわせて確認してください。「集中」は、主に定時授業が行われない期間 または受講生と協議のうえで開設されます。			
担当教員	この授業科目の担当教員名を示します。() 書きは非常勤講師を示します。			
教免区分	この授業科目が教育職員免許法に対応しているかを示します。			
	小	○ → 小学校教諭専修免許状「教科及び教職に関する科目」として充当できる科目		
	中	◎ → 中学校教諭専修免許状(すべての教科)「教科及び教職に関する科目」として充当できる科目		
		理 → 中学校教諭専修免許状(理科)「教科及び教職に関する科目」として充当できる科目		
	高	◎ → 高等学校教諭専修免許状(すべての教科)「教科及び教職に関する科目」として充当できる科目		
理 → 高等学校教諭専修免許状(理科)「教科及び教職に関する科目」として充当できる科目				
特	○ → 特別支援学校教諭専修免許状「特別支援教育に関する科目」として充当できる科目			
対応 DP	この授業科目のディプロマ・ポリシーの各項目に対応する場合、*を付しています。カリキュラム・マップとしても利用します。			
備考	その他、授業の概要・使用教室等については、シラバスまたは担当教員に連絡するなどして確認してください。			

区分	受講対象 学 生 特			時間割コード	授 業 科 目	単 位	対 象	開 設 期 間	曜 時 限	担当教員	教免区分				対応DP			科 目 ナンバリング	備 考
	○	◎	◎								小	中	高	特	1	2	3		
専攻共通		◎		L2433001_L2	教育課程・教材研究における今日の課題Ⅰ	2	1	I	金 34	岡崎・山下・南垣内・福永	○	◎	◎		*			L09014J10099c511	
専攻共通	◎	◎	○	L2433002_L2	教育課程・教材研究における今日の課題Ⅱ	2	1・2	II	金 34	二宮・伊澤・福永・岡崎	○	◎	◎		*			L09014J10099c521	
専攻共通			◎	L2419003_L2	教育課程における今日の課題（特別支援教育）	2	1	年間	集中	山崎・古井・竹澤・北岡					○	*		L09064J10099c524	主にIIIq・IVqに実施
専攻共通			◎	L2419004_L2	教材研究における今日の課題（特別支援教育）	2	1	年間	集中	竹澤・北岡・米田					○	*		L09064J10099c525	
専攻共通	◎	◎	◎	L2416017_L2	問題行動と保護者との連携	2	1	IV	金 12	中川・高幣	○	◎	◎		*	*		L09014J10199c527	
専攻共通			◎	L2419005_L2	学校と家庭との連携（特別支援教育）	2	1	年間	集中	竹澤・(武田)					○	*	*	L09064J10199c526	
専攻共通	◎	◎	◎	L2416014_L2	特別支援教育と体制	2	1	I	水 12	山崎・古井・竹澤・北岡	○	◎	◎		*	*		L09064J10199c510	アドバンス科目
専攻共通	◎	◎	◎	L2416015_L2	子どもの権利	2	1	年間	集中	岡崎・越野・(海堀) 他	○	◎	◎		*	*		L09014J11099c513	主にIIq・IVqに実施
専攻共通	○	○	○	L2416006_L2	学習過程と評価	2	1・2	IV	水 12	谷口・伊澤・福永	○	◎	◎		*			L09014J10099c528	
専攻共通	○	○	○	L2416007_L2	能動的学習の実践的研究	2	1・2	II	水 12	豊田・山下・南・岡崎	○	◎	◎		*			L09014J10099c522	
専攻共通			○	L2419006_L2	自立活動（特別支援教育）	2	1	年間	集中	北岡・(武田)・上野・菅					○	*		L09064J10099c511	
専攻共通	○	○	○	今年度休講 L2433004_L2	道徳教育	2	1	年間	集中	(杉中)・岡崎	○	◎			*	*		L09014J11099c512	主にIIq・IVqに実施
専攻共通	○	○	○	今年度休講 L2416003_L2	生徒指導と体制	2	1・2	II	水 12	高幣・中川					*			L09014J10099c526	
専攻共通			○	L2416027_L2	学校・学級経営Ⅰ	2	1	I	木 12	宮橋・船越・山下・高幣・中川	○	◎	◎		*			L09014J10099c514	
専攻共通			○	L2419007_L2	学校・学級経営（特別支援教育）	2	1	年間	集中	古井・北岡・米田					○	*		L09064J10099c511	主にIqに実施
専攻共通	○	○	○	L2433005_L2	和歌山における家庭・地域と連携した学校づくり（特別活動とカリキュラム）	2	1	IV	木 12	宮橋・伊澤・南垣内・山田	○	◎	◎		*	*		L09014J10199c525	
専攻共通	○	○	○	L2416008_L2	ICT活用と指導技術	2	1	年間	集中	豊田・山田					*			L09014J10099c5E1	
専攻共通	○	○		L2416020_L2	学校安全と危機管理	2	1	I	金 12	添田・南垣内・伊澤・山下他	○	◎	◎		*			L09014J10099c525	
コース専門	◎	○		L2416018_L2	学校と法	2	1	I	木 34	添田・山下・南垣内・宮橋・山田	○	◎	◎		*	*		L09014J11099m531	
コース専門	◎	○		L2416023_L2	学校組織と経営	2	1	I	金 34	添田・南垣内・伊澤・山下	○	◎	◎		*			L09014J10099m532	
コース専門	◎	○		L2416024_L2	教育と福祉の連携	2	1	年間	集中	岡崎・中川					*			L09014J10099m533	
コース専門	○	○		L2419035_L2	カリキュラムマネジメントの理論と実践	2	1	年間	集中	(森)・須佐					*			L09015J10099B5C1	
コース専門	○	◎		L2416022_L2	授業研究の理論と実践	2	1	III	金 12	二宮・南・宮橋					*			L09014J10099c532	
コース専門	○	◎		L2419008_L2	若手校内研修への支援	2	1	II	木 34	豊田・宮橋・福永・須佐	○	◎	◎		*			L09014J10099c531	
コース専門	○	○	○	L2416019_L2	小規模校支援	2	1	III	水 12	豊田・山下・山田	○	◎	◎		*	*		L09014J10199c523	
コース専門	○	○	○	今年度休講 L2416009_L2	基礎基本学習指導方法	2	1・2	IV	金 345	(未定)					*			L09014J10099c552	計15回実施
コース専門			◎	L2416029_L2	授業・教材研究Ⅰ	2	1	II	木 34	豊田・山田・福永・高幣・中川他	○	◎	◎		*			L09014J10099c516	
コース専門			◎	L2416030_L2	授業・教材研究Ⅱ	2	1	III	金 34	豊田・山田・福永・高幣・中川他	○	◎	◎		*			L09014J10099c517	
コース専門			◎	L2416031_L2	授業・教材研究Ⅲ	2	1	IV	金 34	豊田・山田・福永・高幣・中川他	○	◎	◎		*			L09014J10099c518	
コース専門			○	L2416028_L2	学校・学級経営Ⅱ	2	1・2	年間	集中	宮橋・南垣内・伊澤・山下	○	◎	◎		*			L09014J10099c529	主にIIqに実施
コース専門	○	○	○	L2419009_L2	理科実験（小）	2	1	年間	集中	木村・山田	○				*			L09044J10099c533	主にIqに実施

区分	受講対象 学ス授特	時間割コード	授業科目	単位	対象	開設期間	曜 時 限	担当教員	教免区分				対応DP			科 目 ナンバリング	備 考
									小	中	高	特	1	2	3		
コース専門	○ ○ ○	L2419010_L2	理科実験（中・高）	2	1	年間	集中	山田・木村		理	理	*			L09044J10099n534	主にI qに実施	
コース専門	○ ○ ○	L2419011_L2	理科教材開発（中・高）	2	1	年間	集中	木村・富田・山田		理	理	*			L09044J10099n535	主にI qに実施	
コース専門	○ ○ ○	L2433007_L2	探究のための教材開発－算数・数学の カリキュラム連携	2	1	年間	集中	(藤本禎)・高幣・南垣内				*			L09044J10099n533	主にIVqに実施	
コース専門	○ ○ ○	L2433008_L2	探究のための教材開発－統計・デー タ活用	2	1	年間	集中	(藤本禎)・高幣・南垣内				*			L09044J10099n534	主にIVqに実施	
コース専門	○ ○ ○	L2419017_L2	探究のための教材開発－プログラミ ング	2	1	年間	集中	豊田				*			L09044J10099n535	主にIVqに実施	
コース専門	○ ○ ○	L2420001_L2	探究のための教材開発－生活者視点 の授業づくり	2	1	年間	集中	村田・山本				*			L09044J10099n533		
コース専門	○ ○ ○	L2420002_L2	探究のための教材開発－造形表現と 鑑賞	2	1	年間	集中	寺川・永沼				*			L09044J10099n533		
コース専門	○ ○ ○	L2420003_L2	探究のための教材開発－音楽表現と 鑑賞	2	1	年間	集中	山名・菅・小寺・上野				*			L09044J10099n533		
コース専門	○ ○ ○	今年度休講 L2420004_L2	探究のための教材開発－健康・体力 づくり	2	1	Ⅳ	集中	未定				*			L09044J10099n533		
コース専門	○ ○ ○	L2420005_L2	探究のための教材開発－運動指導	2	1	Ⅱ	集中	池田・矢野				*			L09044J10099n534	(TT)	
コース専門	○ ○ ○	L2420006_L2	探究のための教材開発－体育の授業 づくり	2	1	Ⅰ	集中	村瀬				*			L09044J10099n535		
コース専門	○ ○ ○	L2420007_L2	探究のための教材開発－言語感覚育 成のための国語教材研究	2	1	年間	集中	(藤田)				*			L09044J10099n534		
コース専門	○ ○ ○	L2420008_L2	探究のための教材開発－思考力育成 のための国語教材研究	2	1	年間	集中	須佐				*			L09044J10099n535		
コース専門	○ ○ ○	L2420009_L2	探究のための教材開発－基礎基本習 得のための国語指導方法・教材 研究	2	1	年間	集中	須佐				*			L09044J10099n533		
コース専門	○ ○ ○	L2420010_L2	探究のための教材開発－地域の変化 と持続性の探究	2	1	年間	集中	島津・山神 他				*			L09044J10099n533		
コース専門	○ ○ ○	L2420011_L2	探究のための教材開発－現代社会の 成り立ち	2	1	年間	集中	内田・三品・小関 他				*			L09044J10099n534		
コース専門	○ ○ ○	今年度休講 L2420012_L2	探究のための教材開発－公共圏の担 い手育成のための教材開発	2	1	年間	集中	未定				*			L09044J10099n535		
コース専門	○ ○ ○	L2420013_L2	探究のための教材開発－外国語コミ ュケーション能力育成のための指導方法	2	1	年間	集中	尾上				*			L09044J10099n533		
コース専門	○ ○ ○	今年度休講 L2420014_L2	探究のための教材開発－言語活動充 実のための教材開発（英語）	2	1	年間	集中	尾上				*			L09044J10099n534		
コース専門	○ ○ ○	L2420015_L2	探究のための教材開発－CLIL教材開 発	2	1	年間	集中	尾上				*			L09044J10099n535		
コース専門		○ L2419018_L2	特別支援教育推進のための関連機 関との連携	2	1	年間	集中	山崎・古井・竹澤・北岡・ (衣斐)				○	*		L09064J10099n533	主にIII q・IVqに実施	
コース専門		○ L2419019_L2	知的障害・発達障害のアセスメント とケーススタディ	2	1	年間	集中	(高橋)・竹澤				○	*		L09064J10099n512	アドバンス科目/主にIII q に実施	
コース専門		○ L2419020_L2	知的障害児及び発達障害児の学習 指導	2	1	年間	集中	(江田)				○	*		L09064J10099n532	主にII qに実施	
コース専門		○ L2419021_L2	障害児の生理病理と臨床	2	1	年間	集中	(柳川)				○	*		L09064J10099n534	主にIII qに実施	
コース専門		○ L2419022_L2	特別支援教育とコンサルテー ション	2	1	年間	集中	山崎・古井・竹澤・北岡				○	*		L09064J10099n513	アドバンス科目	
コース専門		○ L2419023_L2	発達障害のある子どもの二次障 害の予防と対策	2	1	年間	集中	(武田)・竹澤				○	*		L09064J10099n517	主にIVqに実施	
コース専門		○ L2419024_L2	特別支援教育の理念と現代的課 題	2	1	Ⅰ	集中	山崎・古井				○	*		L09064J10099n516	月曜日に実施	
実 習	◎ ◎	L2416035_L2	課題リサーチインターンシップ	4	1	年間	実習	宮橋・須佐・山下・南垣内・ 伊澤 他	○	◎	◎	*	*		LQ0004J01199n534	月曜日に実施	
実 習	◎ ◎	L2416036_L2	学校実践実習A	3	2	Ⅰ Ⅱ	実習	宮橋・須佐・山下・南垣内・ 伊澤 他				*	*		LQ0005J01199n631		
実 習	◎ ◎	L2416037_L2	学校実践実習B	3	2	Ⅲ	実習	宮橋・須佐・山下・南垣内・ 伊澤 他				*	*		LQ0005J01199n632		
実 習	○ ○	L2416038_L2	先進校実習	1	1	Ⅳ	集中	宮橋・須佐・山下・南垣内・ 伊澤 他				*	*		LQ0004J01199n537		

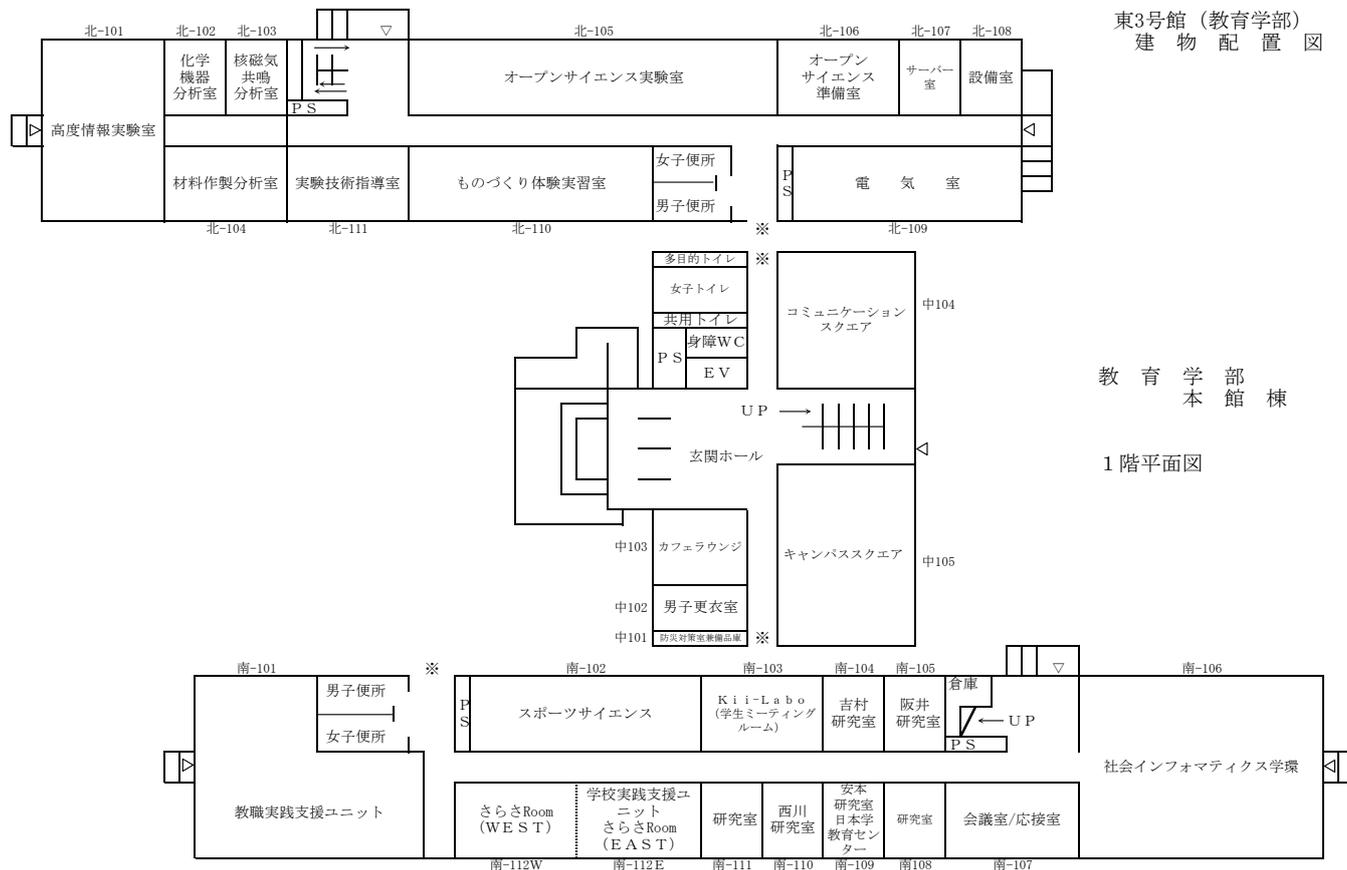
区分	受講対象 学ス授特	時間割コード	授業科目	単位	対象	開設期間	曜 時限	担当教員	教免区分				対応DP			科 ナンバリング	備 考
									小	中	高	特	1	2	3		
実 習	◎	L2416039_L2	授業参加インターンシップ	4	1	年間	実習	豊田・岡崎・中川・福永・山田・高幣 他	○	◎	◎		*	*	LQ0004J01199t515	月曜日に実施	
実 習	◎	L2416040_L2	授業実践実習 A	3	2	I	実習	豊田・岡崎・中川・福永・山田・高幣 他					*	*	LQ0005J01199t621		
実 習	◎	L2416041_L2	授業実践実習 B	3	2	III	実習	豊田・岡崎・中川・福永・山田・高幣 他					*	*	LQ0005J01199t622		
実 習	○	L2416042_L2	小規模校実習	1	1	IV	集中	豊田・山下・岡崎・中川・福永・山田・高幣 他					*	*	LQ0004J01199t524		
実 習	○	L2419025_L2	課題リサーチインターンシップ (特別支援教育)	4	1	年間	実習	竹澤・山崎・古井・北岡			○		*	*	LQ0004J01199t511	火曜日に実施	
実 習	○	L2419026_L2	授業参加インターンシップ (特別支援教育)	4	1	年間	実習	竹澤・山崎・古井・北岡			○		*	*	LQ0004J01199t511	火曜日に実施	
実 習	○	L2419027_L2	学校実践実習 A (特別支援教育)	3	2	I II	実習	竹澤・山崎・古井・北岡			○		*	*	LQ0005J01199t611		
実 習	○	L2419028_L2	授業実践実習 A (特別支援教育)	3	2	I	実習	竹澤・山崎・古井・北岡			○		*	*	LQ0005J01199t611		
実 習	○	L2419029_L2	学校実践実習 B (特別支援教育)	3	2	III	実習	竹澤・山崎・古井・北岡			○		*	*	LQ0005J01199t612		
実 習	○	L2419030_L2	授業実践実習 B (特別支援教育)	3	2	III	実習	竹澤・山崎・古井・北岡			○		*	*	LQ0005J01199t612		
実習関連	◎	L2416025_L2	課題分析	2	1	年間	集中	宮橋・須佐・山下・南垣内・伊澤 他	○	◎	◎		*	*	LM0004J11099t536	※ I II III 一木12 IV一金34	
実習関連	◎	L2419031_L2	課題分析	2	1	年間	集中	宮橋・須佐・山下・南垣内・伊澤 他	○	◎	◎		*	*	LM0004J11099t536	※ I II III 一木12 IV一金34	
実習関連	◎	L2416033_L2	課題分析	2	1	年間	集中	豊田・福永・富田・木村・岡崎・山田・高幣・中川 他	○	◎	◎		*	*	LM0004J11099t519	※ I II III IV 一木1-4 隔週で実施	
実習関連	◎	L2419032_L2	課題分析 (特別支援教育)	2	1	年間	集中	竹澤・山崎・古井・北岡			○		*	*	LM0004J11099t511	木曜日に実施	
実習関連	◎	L2318012_L2	課題探究	2	2	年間	集中	宮橋・須佐・山下・南垣内・伊澤 他					*	*	LQ0005J11099t731	令和6年度(32期)以降対象	
実習関連	◎	L2318013_L2	課題探究	2	2	年間	集中	宮橋・須佐・菅・尾上・矢野・北山 他					*	*	LQ0005J11099t731	令和6年度(32期)以降対象	
実習関連	◎	L2318014_L2	課題探究	2	2	年間	集中	豊田・福永・富田・木村・岡崎・島津・山田・高幣・中川 他					*	*	LQ0005J11099t721	令和6年度(32期)以降対象	
実習関連	◎	L2318015_L2	課題探究 (特別支援教育)	2	2	年間	集中	竹澤・山崎・古井・北岡					*	*	LQ0005J11099t711	令和6年度(32期)以降対象	
修了研究	◎	L2416026_L2	修了研究	2	2	年間	集中	宮橋・須佐・山下・南垣内・伊澤 他					*	*	LM0005J11099t731	令和5年度(31期)以前対象	
修了研究	◎	L2419033_L2	修了研究	2	2	年間	集中	宮橋・須佐・菅・尾上・矢野・北山 他					*	*	LM0005J11099t731	令和5年度(31期)以前対象	
修了研究	◎	L2416034_L2	修了研究	2	2	年間	集中	豊田・福永・富田・木村・岡崎・島津・山田・高幣・中川 他					*	*	LM0005J11099t721	令和5年度(31期)以前対象	
修了研究	◎	L2419034_L2	修了研究	2	2	年間	集中	竹澤・山崎・古井・北岡					*	*	LM0005J11099t711	令和5年度(31期)以前対象	

教育学研究科 教員名簿
 研究科長 山崎 由可里

教育学研究科（専門職学位課程）教員名簿
 教職開発専攻長 山田 真稔

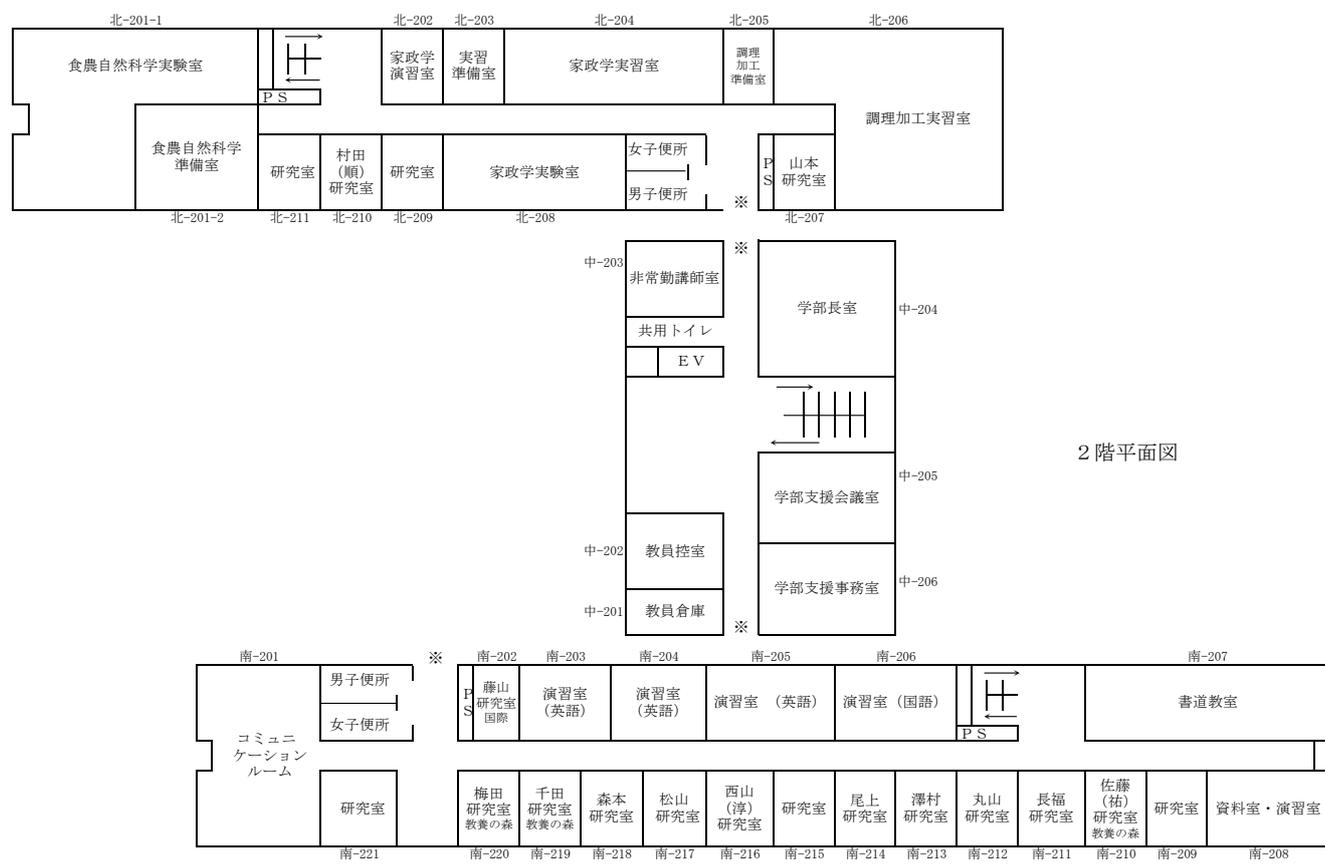
教職大学院			研究室No.	研究室TEL
学校経営・教科教育法	教授	山田 真稔	南-512	[457-7278]
情報教育	教授	豊田 充崇	南-511	[457-7536]
教育方法・教科教育法	教授	岡崎 裕	南-514	[457-7256]
教育行政・教師教育	教授	添田 久美子	南-509	[457-7531]
学級経営	教授	中川 靖彦	南-516	[457-7274]
教科教育法	准教授	須佐 宏	南-510	[457-7290]
教育課程・教育方法	准教授	宮橋 小百合	南-515	[457-7275]
学校経営・教科教育法	准教授	福永 徹	南-513	[457-7338]
道德教育・教科教育法	特任教授	伊澤 真佐子	南-508	[457-7287]
学校経営・教科教育法	特任教授	高幣 泰男	南-508	[457-7261]
学校経営・数学教育	特任教授	南垣内 智宏	南-508	[457-7232]
学校経営・教科教育法	特任教授	山下 真司	南-508	[457-7268]

東3号館 (教育学部)
建物配置図

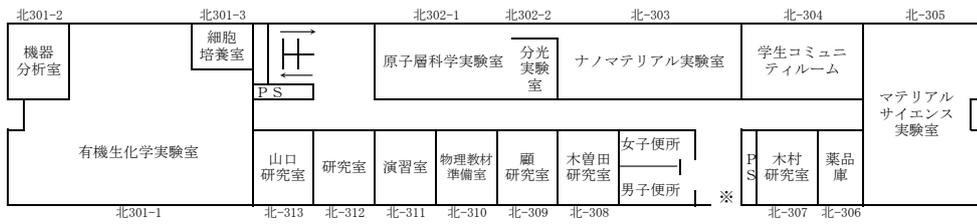


教育学部
本館棟

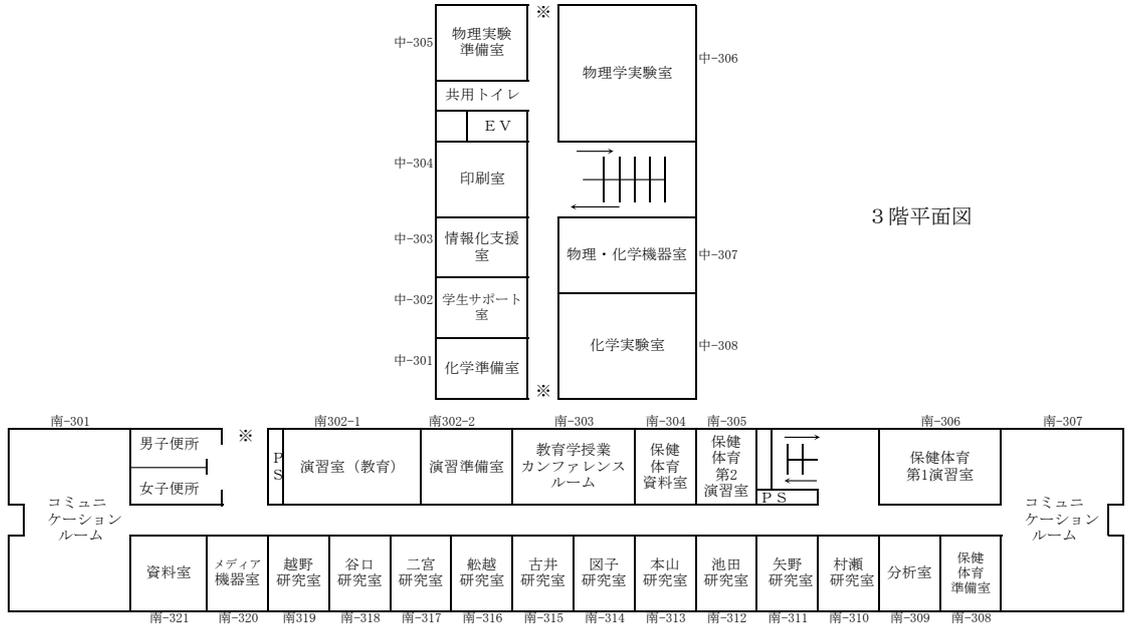
1階平面図



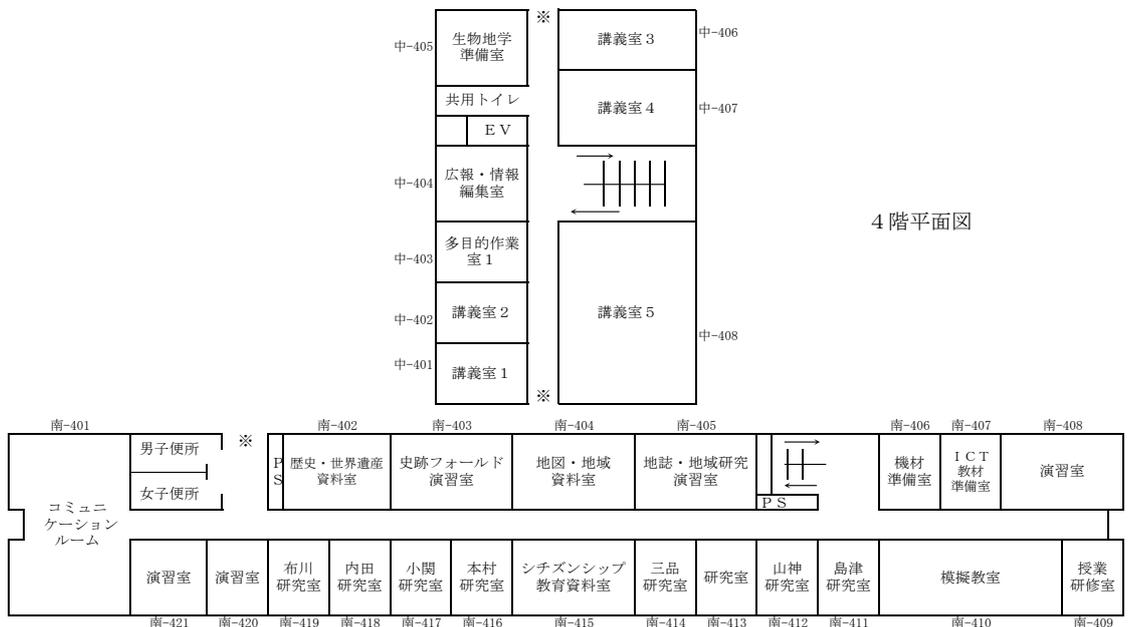
2階平面図

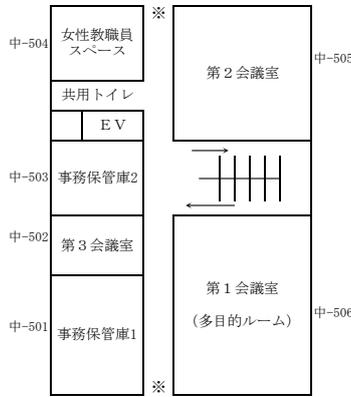


3階平面図



4階平面図

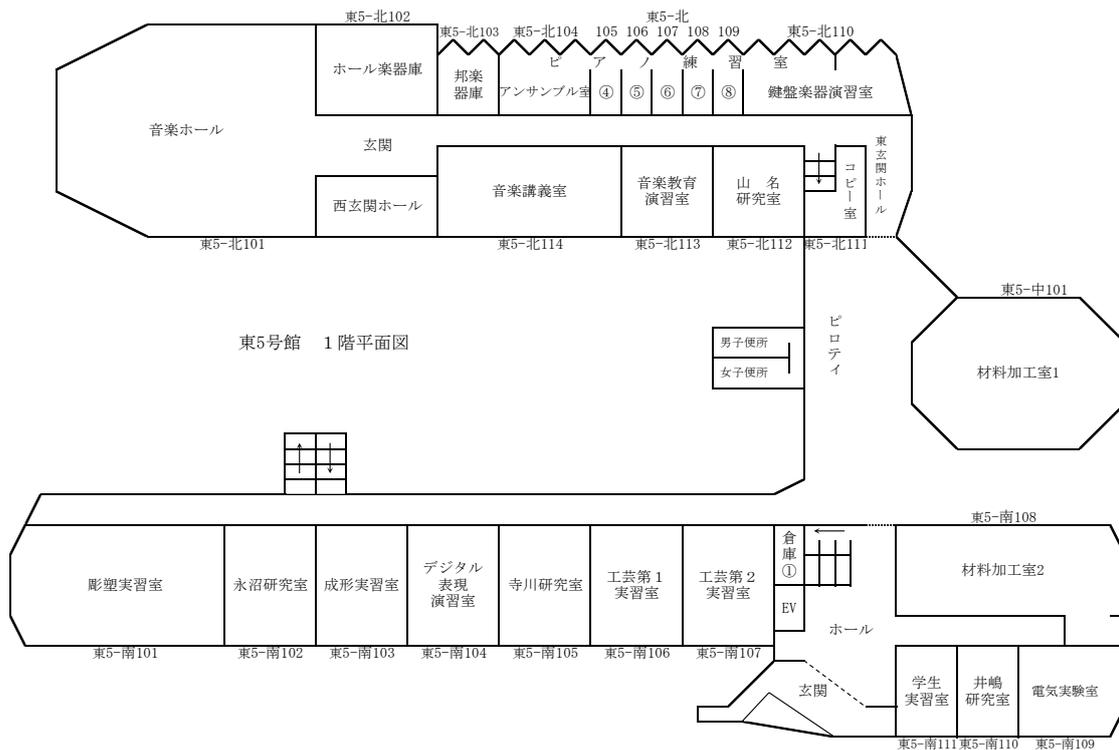




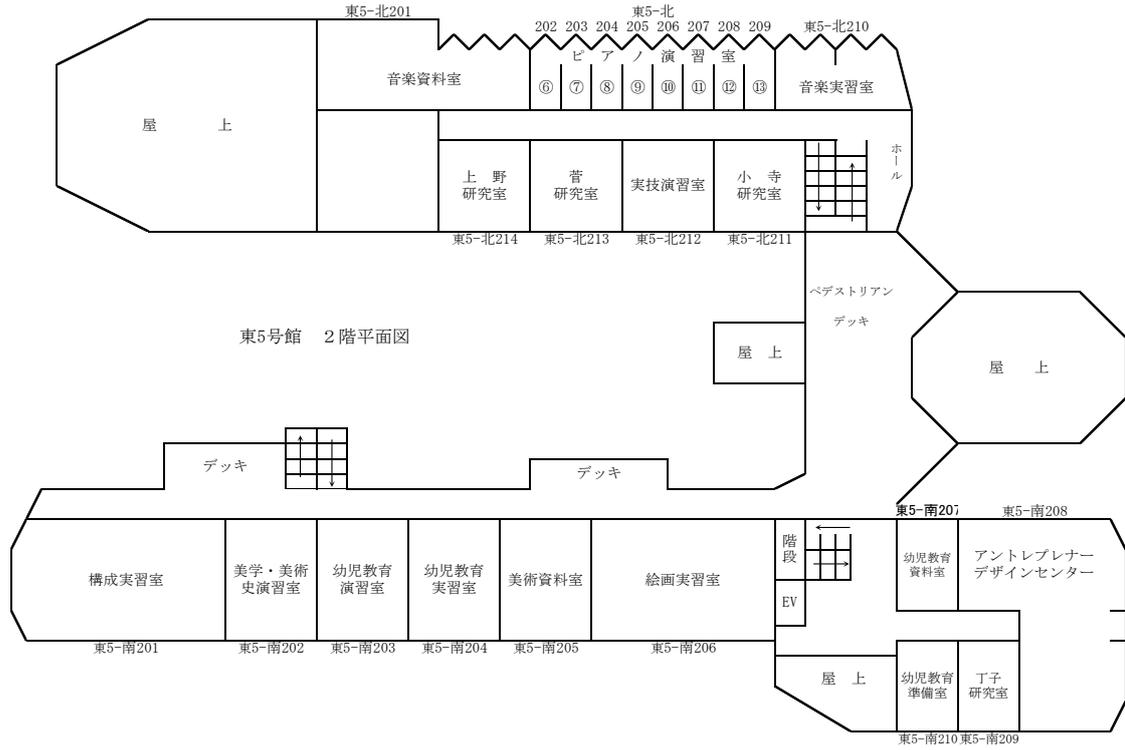
5階平面図



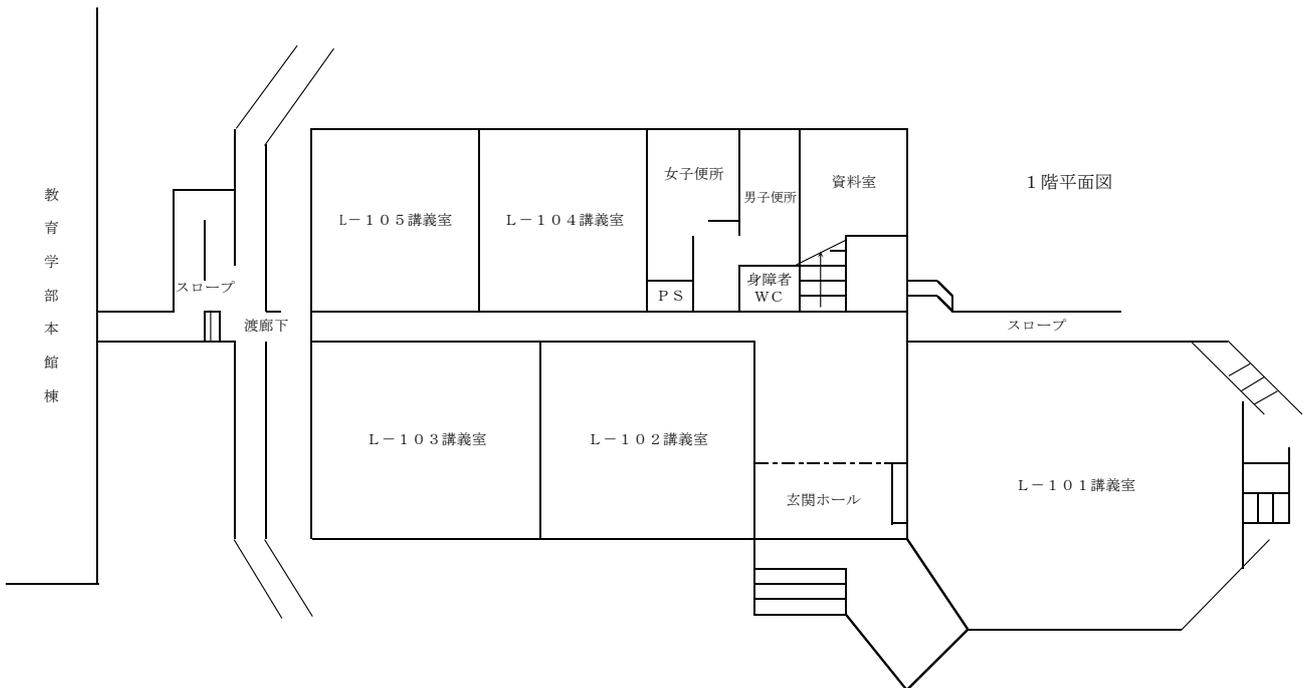
東5号館(教育学部)

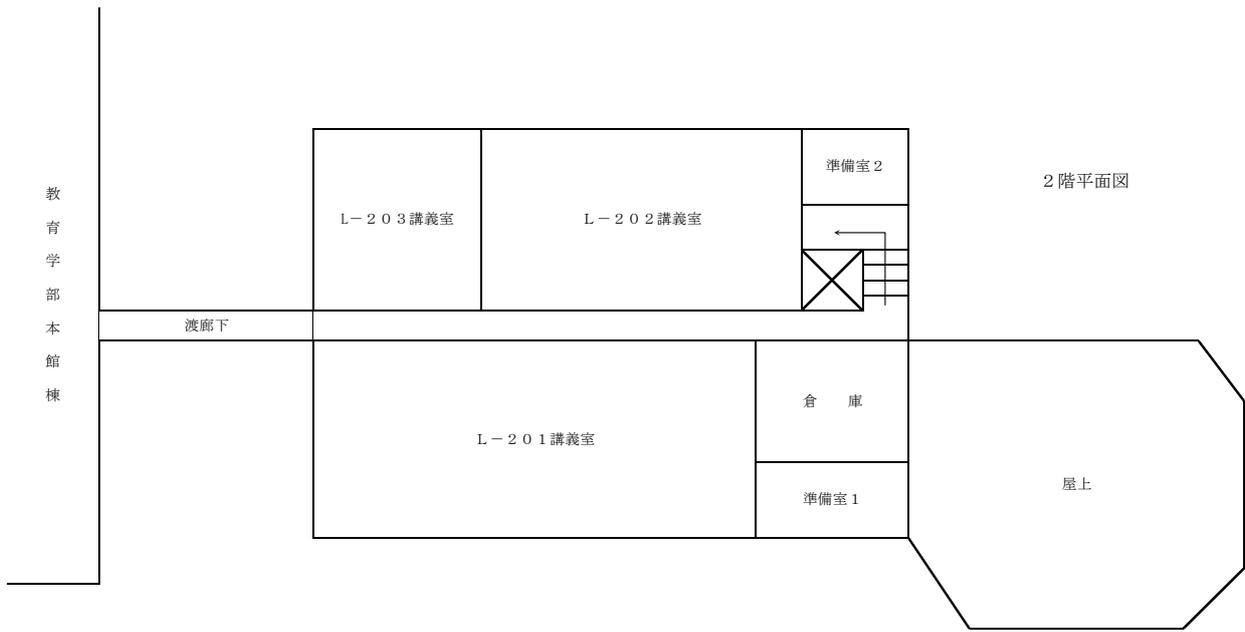


東 5 号 館 (教 育 学 部)



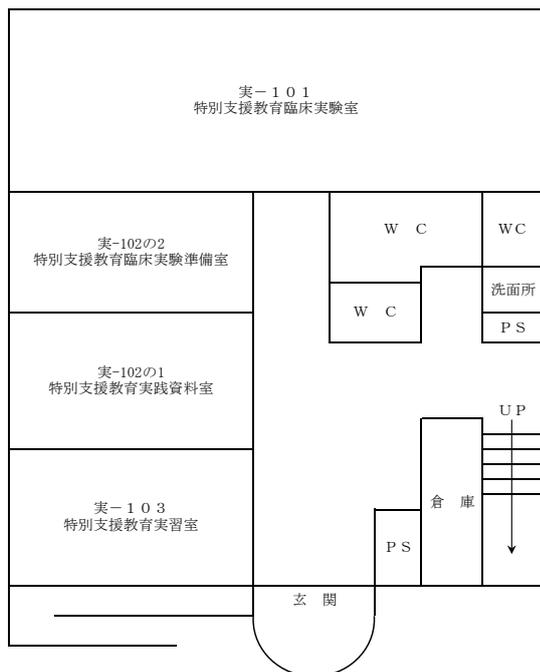
東 2 号 館 (教 育 学 部) 講 義 棟



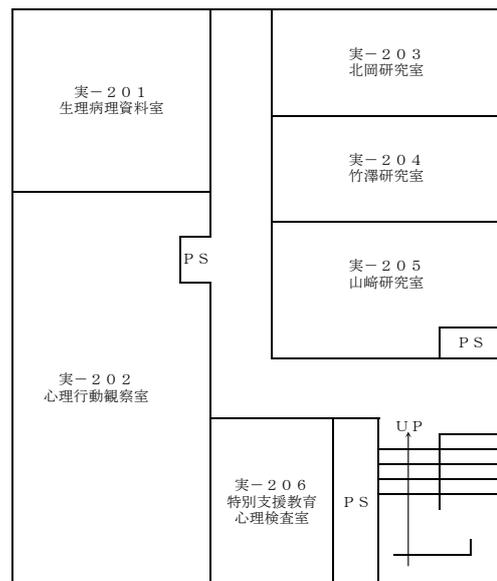


東 4 号 館 (教 育 学 部)

(1 階)



(2 階)



和歌山大学大学院教育学研究科 令和7年度（2025年度）履修手引

令和7年（2025年）4月発行

編集・発行 和歌山大学大学院教育学研究科

印刷 和歌山印刷所

〒640-8510 和歌山市栄谷 930 073-457-7219 (fax7800)

Course Guide 2025

令和7年度

edu.